

みとよし 三豊市の観光と食の魅力

— 自然と暮らしやすさが揃う瀬戸内のまち



▶年間約 50 万人が訪れる父母ヶ浜

三豊市(みとよし)は、香川県西部に位置し、約 222 km²の市域の中に海・山・島をあわせ持つ自然豊かなまち。穏やかな瀬戸内海を日常の風景として眺めることができ、瀬戸内らしい暮らしが広がっています。

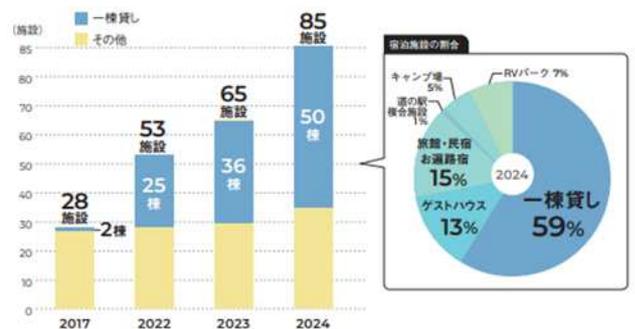
また、香川県は全国で最も面積の小さい県で、県内の移動時間も短く、生活や仕事の拠点として暮らしやすいコンパクトな地域であり、年間を通じて温暖で、台風や豪雨などの自然災害が比較的少ないことも特徴です。

— 観光産業が生まれ、成長を続けるまち

三豊市内宿泊者数の推移



三豊市内の宿泊施設の増減



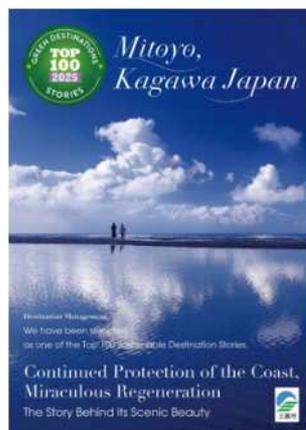
「日本のウユニ塩湖」と称される父母ヶ浜が SNS を通じて注目を集めたことをきっかけに、三豊市では観光産業が生まれました。現在では多くの観光客が訪れるようになり、入込客数や宿泊者数も年々増加しています。

また、観光の広がりにあわせて地域の新たな取り組みも進んでおり、宿泊施設や観光関連事業の立ち上げなど、民間主体の挑戦も増えています。こうした動きの中で、観光を軸とした地域づくりが広がりを見せています。

— 世界から注目を集めはじめた三豊市



▶父母ヶ浜での清掃活動を続けている「ちちぶの会」のみなさん



▶TOP100ストーリーに選出

三豊市は、国内外から注目を集める地域へと成長しています！

父母ヶ浜(ちちぶがはま)における持続可能な観光地づくりの取り組みが評価され、**世界の優良事例として紹介される「Green Destinations Top100 Stories」**に選ばれました。

また、製塩で栄えた海の町の古民家を再生した宿泊施設「**NIPPONIA**」など、地域資源を活かした新しい観光の取り組みも進んでいます。地域の歴史や文化を大切にしながら、持続可能な観光地づくりが広がっています。

さらに、世界中から多くの人々が訪れる「**瀬戸内国際芸術祭**」の会場である粟島は、届け先のない手紙が集まる「**漂流郵便局**」や日本最古の「**海員養成学校**」があり、アメリカ最大級の日刊紙「ワシントン・ポスト」やフランスのブルジョワ・ボヘミアンのお洒落雑誌「SO GOOD」等に掲載され、国外からの注目度も高まっています。



▶NIPPONIA NIO 水鏡の町



▶海外メディアのFAMツアーや取材も積極的に実施



▶粟島にある日本で初めての海員養成学校



▶瀬戸内国際芸術祭粟島会場の作品

一 三豊の観光フィールド

三豊市には、自然や歴史、人の暮らしが感じられる魅力的な観光地が点在しています。地域の人々と関わりながら、こうした場所を舞台にさまざまな活動を展開することができます。

市内の主要な観光エリア

■ 父母ヶ浜(ちちぶがはま)、仁尾の古い町並み

「日本のウユニ塩湖」とも称される**市内を代表する観光スポット**。干潮時に現れる水鏡の景色を求めて、多くの観光客が訪れます。毎月1回、地域住民と観光客が共に海岸清掃をする日があるなど、**交流拠点**にもなっています。

■ 紫雲出山(しうでやま)、荘内半島

瀬戸内海の多島美を一望できる絶景の山。春には桜の名所としても知られ、**平日はインバウンドが国内客を上回る**ほど国外からも多くの観光客が訪れます。地域住民による**桜の保全活動**により景観が維持されています。

■ 粟島(あわしま)

港から船で15分ほどの瀬戸内海に浮かぶ小さな島で、穏やかな時間が流れる場所です。瀬戸内国際芸術祭の会場のひとつでもあり、毎年東京藝術大学から若手アーティストを3~4カ月招聘し、島民や来訪者と共にアート作品を制作する「**アートの島**」としても有名です。

■ 志々島(ししじま)

港から船で20分ほどで行ける**人口約20人の穏やかな島**です。島のパワースポットである樹齢約1200年の大楠や、かつて盛んだった花き栽培を続ける島のおばあちゃん花畑が有名で、**地域の人**が島の文化や暮らしを守っています。



一 三豊の食資源（農水産業の一番の強み）

三豊の最大の特徴は、農・山・海が一体となっており、「コンパクトな地域に多様な食資源がある」

ことです！

- ・**海の魚介** … 瀬戸内海に面しているため漁業も盛ん。小規模ながら質の高い沿岸漁業。
- ・**平野の野菜** … 少量多品目でバリエーションが豊富。観光コンテンツ化しやすいです！
- ・**里山の資源** … 竹林資源、しいたけなどのきのこ類、山菜・ジビエ資源など、里山の食資源も豊富。
- ・**果樹** … みかん、桃、ぶどうなど年中多様なフルーツが生産されています！

➡これらが車で 30 分圏内にあるのが三豊の強みです！

ですので、例えば

朝：漁港

昼：農家

夕：夕日(父母ヶ浜)

のような体験設計ができるのは、三豊ならではの強みです！

➡そのほか、三豊市の主な畜産農物、旬のお魚は別紙資料をご覧ください。

一 三豊市で人気の食のお土産（代表的なもの）



■ おいり

カラフルで丸い伝統菓子「おいり」は、西讃地域の結婚文化から生まれたお菓子で、三豊市でも定番のお土産。和三盆を使ったやさしい甘さで、最近はスイーツのトッピングとしても人気です。

■ いりこ

お隣の観音寺市とともに、三豊市は「いりこ文化」が根付く地域です。

いりこは、讃岐うどんの出汁を支える代表的な食材であり、香川県民の日常の食を支える欠かせない存在となっています。



■ 三豊産フルーツ

温暖な瀬戸内の気候に恵まれた三豊市では、ぶどうや桃、みかんなど多彩なフルーツが栽培されています。季節ごとに旬の果実が楽しめるほか、鮮度と品質の高さも三豊産フルーツの魅力です。特に、曾保みかんは全国にファンがいる。

■ 高瀬茶(たかせちゃ)

三豊市高瀬町は、香川県のお茶生産量の8割を占めるお茶の生産地。生産量は全国の出荷量の0.2%と、希少価値が高く、ほとんどが香川県内で消費される知る人ぞ知る銘茶。



■ 仁尾酢(におす)

三豊市仁尾町でつくられる仁尾酢は、昔ながらの製法で丁寧に醸造される地域を代表する発酵食品です。まろやかな酸味とやさしい風味が特徴で、地元の家庭料理や飲食店でも親しまれ、三豊の食文化を支える存在となっています。

■ 三豊なす

やわらかな果肉と甘みのある味わいが特徴の知る人ぞ知る三豊市の特産品です。県外への流通が少なく、地元で親しまれている希少な食材でもあります。三豊らしい食材として、加工品や観光コンテンツへの活用も期待されています。



三豊市には、いりこや三豊なす、仁尾酢、季節のフルーツなど、多彩な食資源があります。一方で、「三豊市といえばこれ」という定番の土産品はまだ発展途上です。だからこそ、地域の食材や文化を活かし、新たな商品や体験を生み出す余地があります。食の魅力を活かした新しい価値づくりに挑戦できることも、三豊市ならではの魅力です。

—三豊市の地域産品ブランド「みとよのみ®」



「みとよのみ®」とは、三豊の温暖な気候や豊かな風土で育まれた多彩な農林水産物を素材として生み出された優れた産品を認定する制度です。野菜やフルーツを知り尽くした生産者自身が商品化しているため、安心・安全・美味しさ・地域性にこだわって作られたものばかり。地域や農林水産業の未来を考え、「社会や環境をより良くしたい、持続可能なものにしたい」という、生産者の知られざる想いと実践が詰まっています。

